

久松ゼミナール (3・4 年生)・ハンドブック 2020

(2020 年 10 月 24 日版)

この『久松ゼミ・ハンドブック』で久松ゼミの 3 年生から 4 年生までの全体の進行がわかります。

目次：

0. はじめに (就活 ES でゼミのタイトルは「企業の経済学」！)	1
1. 国際地域学演習 I シラバス	2
1. 1. 春学期スケジュール	2
1. 2. 読書レポート、サブ・ゼミ、そしてゼミ T シャツ	3
1. 3. コンパ等	3
1. 4. 文献リスト	3
1. 5. 春のインターゼミ (7 月上旬を予定)	4
1. 6. 夏休みの課題 (企業比較レポート)	4
2. 春学期のまとめ、そして、夏休みから秋学期へ	5
2. 1. 夏休み	5
3. 夏合宿	6
3. 1. 場所	6
3. 2. スケジュール (二泊三日)	6
3. 3. 夏合宿の手引き作りとゼミ T シャツ作り	6
4. 国際地域学演習 II シラバス	7
4. 1. 秋学期スケジュール	7
4. 2. 推奨文献	8
4. 3. 就職活動とサブゼミ	8
4. 4. 秋のインターゼミ (11 月初旬を予定)	9
4. 5. 2 年生対象のゼミ説明会や 2 年面談	9
4. 6. 各自の卒論に向けたテーマ発表 (冬休み課題)	9
4. 7. ゼミ内定生オリエンテーション	9
4. 8. OB・OG 会(11 月下旬を予定)	9
5. 春の一日遠足&夕飯会	9
6. 春休み宿題	9
6. 1. 卒論主題ミニレポートの書き方	10
6. 2. 卒業論文までの見通し	11
7. 国際地域学演習 III	13
7. 1. 春のインターゼミ (7 月上旬を予定)	13
8. 夏合宿	13
8. 1. 夏合宿の課題	14
9. 卒業論文演習	14
9. 1. 秋のインターゼミ (11 月上旬を予定)	15
9. 2. OBOG 会 (10 月下旬 or 11 月上旬を予定)	15
9. 3. 新年会もしくは学期末コンパ	15
9. 4. 卒論発表に向けて	15
9. 5. 卒業宴会	15
10. 当然の常識と頭がよくなる秘訣	15
11. これまでの卒業論文	15
12. 卒業したら	18
13. Q&A (オンライン対応含む)	19

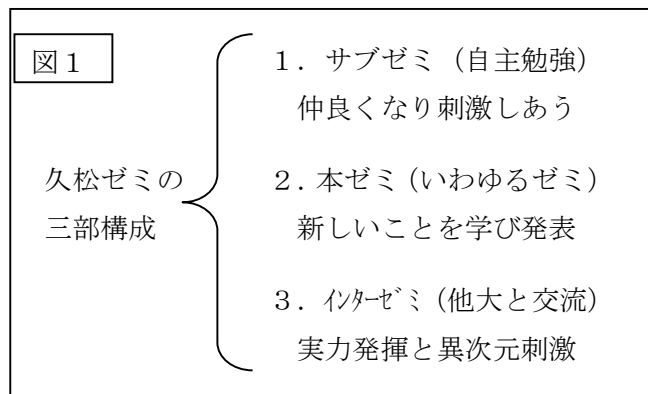
<卒業した先輩たちの言葉は別の文書にまとめて、ゼミのホームページに載せてあります>

ひさまつよしあき
 担当教員：久松佳彰 hisamatsu@toyo.jp 白山キャンパス 8 号館 3 階 第 7 番研究室 03-3945-8048 (office: tel. and fax)

0. はじめに（就活 ES でゼミのタイトルは「企業の経済学」！）

この総合シラバスの目的は、3年生から4年生へ、そして卒業まで繋がる2年間の「久松ゼミ」で何を学習するのかを概観することです。学習内容としては、我々は「企業の経済学」という大きな枠組みの中で、特にグローバル企業を中心に財務・経営戦略まで含めた実証分析をおこなっていきます。しかし、久松ゼミは形式（型）にも特徴がありますので、まず「形式」を紹介してから、簡単に「企業の経済学」の中身についてお話したいと思います。

久松ゼミの形式の特徴は2つあります。第一に、「サブゼミ・本ゼミ・インターゼミ」の三部構成です。第二に、学年内・学年間の学生同士の「教え合い」を強調しているところです。図1に示したように、ゼミは時間割表に示された「国際地域学演習Ⅰ（本ゼミ）」だけでなく、「サブゼミ」と「インターゼミ」を行うのが特徴です。サブゼミでは3年春には「マイクロ経済学」と「時事英語」



を自主学習していただきます。勉強の仕方は、先輩や久松から習います。3年秋には、就職活動の様々な練習（テスト、エントリー・シート、他己・自己分析）に利用していきます。春と秋におこなうインターゼミは、自分の実力を未知の相手に発揮し、同時に異次元の刺激を受けることを目指しています。

第二の特徴である、学年内・学年間の学生同士の「教え合い」ですが、学年内の「教え合い」はサブゼミに代表されるでしょう。しかし、本ゼミの準備でも、インターゼミでもグループ活動はとても大事です。学年間の教え合いはゼミのスケジュールに埋め込まれています。まず、3年生が出席する内定生オリエンテーションから始まります。ゼミの運営や、サブゼミなどのやり方も新3年は新4年から教えてもらおうといいでしょう。3年夏のゼミ合宿では、3年の発表を4年がコメンテーターとして質問します。3年秋になると、今度は3年生が次の2年生に説明会でゼミの説明をおこないます。1月には、4年生が卒業論文発表会で自分の卒論をプレゼンし、これを3年と4年のゼミ生全員が審査します。ゼミ・コンパも基本的には3・4年合同で行ないます。おおまかなスケジュールは表1に掲載したとおりですが、多くの活動が合同で行なわれていることを確認してください。

「企業の経済学」を学ぶゼミとしての内容の特徴は二つです。①実証分析を重視する。②応用マイクロ経済学のゼミとして「制約付き最適化」を企業サイドから学ぶ。実証分析をするためには、会計の知識が必要です。そこで、春学期は会計を学んで夏の財務レポート執筆の準備をしていきます。秋は、応用マイクロ経済学のテキストを輪読していきます。強固なマイクロ経済学の論理をできるだけ自分のものとしていただきたいと思います。

まとめると、3年春学期から夏休みまでは経営学大学院（MBA）でおこなう「ファイナンス」の初歩であり、3年秋学期は同じくMBAのマイクロ経済学の初歩になつ

表1	3年	4年
2月	内定生個人面談	
3月	春休み活動レポート	春一日遠足
4月	花見、演習Ⅰ	演習Ⅲ
5月	(コンパ)	
6月	ゼミT・合宿企画、 インターゼミ	卒論先行文献研究
7月	学期末コンパ	
8月	財務レポート作業	卒論研究
9月	ゼミ合宿	
	演習Ⅱ	卒論演習
10月	財務レポート完成版	
11月	インターゼミ	
12月	ゼミ説明会	卒論完成
1月	ゼミ・オリ、卒論発表会、コンパ	

ています。3年で学んだ知識と道具をもって4年には卒論に取り組んでいただきたいと思います。

最後に久松ゼミのスローガンを申し上げます。①『IQも愛嬌も!』、②『発言しなければゼミに参加したことにならない』、③『Trial and Error!』(試行錯誤)、④『ああ言えばこう言える人間になる』、⑤『よく学び、よく遊べ』、⑥『Muddle through』(とにかく切り抜ける)、です。もちろん、⑦「ほう(報告)、れん(連絡)、そう(相談)」も大事ですし、人生で大事なものは⑧『integrity』(倫理的に正しく、首尾一貫していること)だと思います。では、これから一緒に学習して⑨『5%成長』しましょう。

1. 国際地域学演習Ⅰシラバス

目的と内容

経済学についてのある程度の基礎知識を前提として、ビジネスにおける財務・ファイナンス面での基礎知識を学習し、併せてレジュメ作成や発表に関する基礎能力をつける。

1. 1. 春学期スケジュール

回数	日付	内容	形態	文献
第一回		イントロダクション、名簿用写真撮影	講義	
第二回		財務情報の基礎知識：バランス・シート(BS)とインカム・ステートメント (IS) の学習 I	講義	(久松 2003) ヤキソバ屋
第三回		財務情報の基礎知識：BS と IS の学習 II	講義	(久松 2003) ヤキソバ屋
第四回		財務情報の基礎知識：BS と IS の学習 III	講義	(久松 2003) ヤキソバ屋
第五回		財務情報の基礎知識：BS と IS の学習 IV	講義	(久松 2003) ヤキソバ屋
第六回		財務分析の基礎知識：様々な財務比率による企業比較 I	学生発表	(伊藤 2016) 配布プリント
第七回		財務分析の基礎知識：様々な財務比率による企業比較 I	学生発表	(伊藤 2016) 配布プリント
第八回		財務分析の基礎知識：様々な財務比率による企業比較 II	学生発表	(伊藤 2016) 配布プリント
第九回		財務分析の基礎知識：様々な財務比率による企業比較 III	学生発表	(伊藤 2016) 配布プリント
第十回		財務分析の基礎知識：様々な財務比率による企業比較 IV	学生発表	(伊藤 2016) 配布プリント
第十一回			学生発表	(伊藤 2016) 配布プリント
第十二回		財務理論の基礎知識①：資産の価値評価	学生発表	(井出・高橋 2009、第3章)
第十三回		財務理論の基礎知識②：資産の価値評価	学生発表	(井出・高橋 2009、第3章)
第十四回		財務理論の基礎知識③：株式の価値評価	学生発表	(井出・高橋 2009、第4章)
第十五回		企業比較レポートの産業と企業名決定		

注意点：ゼミ合宿をいつやるかについてのアンケートをとり予約する(ゼミ代表・副代表)

ゼミT担当を決めて、ゼミTシャツをつくること

企業の夏休みインターシップなどに積極的に応募すること

第十六回(8/1)は予備日、8/8に留学等で夏合宿不参加者の発表会を行う予定。

1. 2. 読書レポート、サブ・ゼミ、そしてゼミTシャツ

この他、読書レポートを一回おきに課す(2週間に一冊を3回程度)。受講生の日本語読解能力を考慮して、日本人学生には久松が選んだ本(末尾の文献目録を参照)を読んでレポートを提出する。留学生については『日経ビジネス』の中で久松が選んだ記事を読むことも可能。全体でA4一枚、半分は要約、残りの半分は自分の感想と意見である。「フォトリディング」の手法を使うことを推奨する¹⁾。

ゼミの有志で、サブ・ゼミ(本ゼミとは別の自主的な勉強会)をやります。4年生に指導を受けながらやるのも効果的ですが、自主的に勉強するので結構です。以前には伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』(日本経済新聞社)を読んでいましたが、2009年以降は三土修平『はじめてのミクロ経済学(増補版)』(日本評論社、2014年)および英語(時事動画を利用)を課題とします。前者は秋学期の予習になります。

最後に、夏合宿用のゼミTシャツ(もしくはポロシャツ)を作ってください。これはとても重要です。

1. 3. コンパ等

☆新ゼミ歓迎会は5月末頃に3・4年合同でおこなう(主催は3年)。

☆学期打ち上げコンパ: こちらも3年生主催

注意点: 飲み会は店を予約して事前に会費を集めること(動けるところがいいなあ)

[相談]2019年度4年生ゼミ長 櫻井翔一朗 s18101601479@toyo.jp

1. 4. 文献リスト

授業と関連した文献

- A) 伊藤邦雄『新・現代会計入門 第3版』日本経済新聞社、2018年。(教科書) 3,500円+税と高価に思えるかもしれないが、夏休みの課題には絶対必要な文献なので早く購入しておくこと。本書は『ゼミナール現代会計入門(第九版)』(日本経済新聞社、2012年)を元にしており、一版(1994年)、二版(1998年)、三版(2000年)、四版(2003年)、五版(2005年)、六版(2006年)、七版(2008年)、八版(2010年)と版を重ねる度に書き換えがなされ、特に終章の「分析の実例と活用」は新しい実例に書き換わっているという教科書の見本)
- B) 井出正介=高橋文郎『経営財務入門(第4版)』日本経済新聞社、2009年。(教科書) 購入義務は課さない。第5章(資産の価値評価)と第6章(株式の価値決定)を授業の終盤で使用する)
- C) 久松佳彰、2003、「ヤキソバ屋を使った財務諸表の簡単な理解」、未刊行メモ。(教科書) 初回に配布する。授業の最初の数回は本テキストを利用する)
- D) 新井啓『ファイナンス入門』慶應義塾大学出版会、2004年。(授業でカバーするファイナンス理論の自習書・副読本として推薦できる)
- E) バートン・マルキール『ウォール街のランダム・ウォーカー <原著第10版>—株式投資の不滅の真理』日本経済新聞社、2011年。(株式投資について知りたかったらこの本を読んでください)
- F) 縄田和満『Excelによる統計入門—Excel2007対応版』朝倉書店、2007年。(エクセルを使いながら簡単な統計を勉強できる自習書。夏休みに自分で準備しよう)
- G) 永野則雄『経営がわかる会計入門』ちくま新書(458)、2004年。(700円と安価であるが、授業でカバーする会計部分を解説している自習書・副読本として推薦できる)
- H) ジョン・A・トレーシー『MBA入門ファイナンス』日本経済新聞社、2005年。(授業でカバーするファイナンス

¹⁾ 「フォトリディング」のやり方については、加藤昌治『考具』p.77を参照のこと。

理論の自習所・副読本として推薦できる)

D) 加藤昌治『考具』阪急コミュニケーションズ、2003年。(アイデア・パーソンになるための秘訣本)

読書レポート用の文献例 (他にも好みに応じてお勧めする本はたくさんあります)

- I. 安部修仁＝伊藤元重『吉野家で経済入門』日本経済新聞出版社、2016年。
- II. 伊藤信吾『風に吹かれて豆腐屋ジョニー』講談社、2006年。
- III. イアン・エアーズ『その数学が戦略を決める』文藝春秋、2007年。
- IV. 大竹 文雄『経済学のセンスを磨く』日経プレミアシリーズ、2015年。
- V. 大竹 文雄『競争社会の歩き方・自分の「強み」を見つけるには』中公新書、2017年。
- VI. 菊地敬一『ヴィレッジ・ヴァンガードで休日を』新風舎文庫、2005年。
- VII. 木下玲子『寺子屋グローバリゼーション』岩波書店、2006年。
- VIII. 栗原 幹雄『フレッシュネスバーガー手づくり創業記』アスペクト文庫、2011年。
- IX. レイ・クロック＝ロバート・アンダーソン『成功はゴミ箱の中に』プレジデント社、2007年。
- X. 小菅正夫『<旭山動物園>革命』角川 ONE テーマ 21、2006年。
- XI. 高橋伸夫『できる社員は「やり過ぎず」』日経ビジネス人文庫、2002年。
- XII. P. F. ドラッカー『非営利組織の経営』ダイヤモンド社、1991年。
- XIII. 中室 牧子『「学力」の経済学』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2015年。
- XIV. 西田憲正『東横インの経営術』日本評論社、2004年。
- XV. マーシャル・ジュボンス『経済学殺人事件』日経ビジネス人文庫、2004年。
- XVI. 柳井正『一勝九敗』新潮文庫、2006年。
- XVII. 山口 慎太郎『「家族の幸せ」の経済学 データ分析でわかった結婚、出産、子育ての真実』光文社新書、2019年。
- XVIII. マイケル・ルイス『マネー・ボール』ランダムハウス講談社、2004年。
- XIX. ラッセル・ロバーツ『インビジブル・ハーツ：恋におちた経済学者』日本評論社、2003年。

1. 5. 春のインターゼミ (7月上旬を予定)

春学期の土曜日半日から一日を使ってインターゼミを行う予定。他大学と交流して刺激を受ける。専修大学経済学部国際経済学科狐崎ゼミ、本学科沼尾ゼミ、他と交流の予定。

1. 6. 夏休みの課題 (企業比較レポート)

企業レポートにおいて特定国 (通常、日本) の特定業種における複数企業 (2つもしくは3つ) の財務情報に基づいて財務分析を行い、さらに当該企業の経営戦略を抽出し比較し議論する。

1. 6. 1. ゼミ合宿での発表課題:

自分が関心をもつ産業 (例: ビール産業) を選び、その中で対照的な日本企業 (上場企業) を複数社 (2社以上、例: アサヒビールとキリンビール) 選び、その二つのここ5年間の経営について指標を的確に選びながら、データを元に議論する。一年前に選択された企業は選べない。その結果、二つの会社の取っている経営戦略 (やビジネス・モデル) が対照的に明確になることが望ましい。それをレポートに書き、レジュメにして発表する。

例としては、発表してもらった (ている) アサヒビール対キリンビールの分析や、教科書末尾の分析である、伊藤邦雄『新・現代会計入門 第4版』(日本経済新聞社、2020年) は必ず手元において参照すること。学生に身につけてもらいたい技術は、1次データをもとにエクセルを使って自分で加工して、それを元に表やグラフをつくり、作成した図表をワード文書を作成し一貫した議論を進めることである。

1. 6. 2. ゼミ合宿までの提出物:

- ① A4×10枚以上15枚以下 (図表含む) のレポート (合宿 1週間前 に久松のメールアドレスに添付ファイルで必着のこと) hisamatsu@toyo.jp
- ② A3 (A4×2) 1枚の発表用レジュメ (3日前までに久松のメールアドレスに送付、もしくは合宿当日に人数分をコピーして自分で持参)

1. 6. 3. 評価

合宿に参加・不参加の学生も、レポートの提出を義務とする。**提出ができなかった学生は、残念だが、秋学期には別のゼミに行ってもらいたい。**責任を持って、行きたいゼミの先生に紹介するのでよろしく。いわば、秋学期に継続して、本ゼミを受講する為にレポート作成は必須である。夏は長い。さっさとレポートを書いて、遊ぶなり、勉強するなり、働くなり、したいことをして欲しい。

1. 6. 4. レポート用のデータ

東洋大学の図書館ホームページ（データベース⇒eol）から、上場企業については有価証券報告書のダウンロードができる。学校に来ている間に、上手に企業を見つけて資料をダウンロードして欲しい。自宅からだと、EDINET という無料のサービスがある(<http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/>)。この際、全てをプリントアウトすると大変なので、財務諸表部分だけをプリントアウトし、その他の部分は USB ストレッジや CD-ROM などにファイルで保存することが望ましい。もちろんのことだが、最新の有価証券報告書は最初のページから読むこと。

1. 6. 5. 注意

現 4 年生は去年同じテーマをやったので、3 年生は 4 年生とよく質問・相談してアドバイスをもらうこと。去年の企業と重ならないこと。昨年度のレポートはゼミ・ホームページに掲載されているので参考にしてよろしい。

2. 春学期のまとめ、そして、夏休みから秋学期へ

	会計 ・ ヤクソバ屋（バランス・シート、インカム・ステートメント、キャッシュフロー・ステートメント） ・ 伊藤邦雄（アサヒビール vs. キリンビール） ・ 日経ビジネスを読む（多くの事例を勉強する）	→ 9月合宿 ↓
ファイナンス ・ 債券価格、株式価格の算出 ・ （オプション、デリバティブ等の計算）	会計 → 経営 財務の基本 ライバル企業との競争	ミクロ経済学（秋学期） ・ 丸山雅祥『経営の経済学』 ・ スザンヌ・バーガーと MIT 産業生産性センター『MIT チームの調査研究によるグローバル産業の成功戦略』など
	そしてもう一つ、例えば： ・ マクロ経済 ・ 地域経済 ・ 国際経済 ・ 金融論 ・ デザイン論（商品開発） ・ 生産マネジメント	

2. 1. 夏休み

- ・ 3 年の夏休みは自分の「ヤッタコト」を造る最後の夏休みです（就職活動のセールスポイント）。
- ・ 自己発見分析と業界研究を始めて、志望する業種・業界を 3 つ程度決めること。具体的には、大学入学から今までにやったこと（アルバイト、勉学、留学など）を学年四季別に紙に書き出して、そ

の項目を繋げる共通要素を見つけてください（自己発見分析）。その共通要素と志望業界の関連を探してください（業界研究）。

参考書（他にも好み・悩みに応じてお勧めする本はたくさんありますので相談をしてください）

- I. 金井壽宏『やる気！攻略本』ミシマ社、2008年（モチベーションを上げるための自己発見分析）。
- II. 森村稔『自己プレゼンの文章術』ちくま新書、2007年（自分にひきつけて短い文を書く例と練習本）。
- III. 横山雅彦『高校生のための論理思考トレーニング』ちくま新書、2006年（論理性をつけるための本）。

3. 夏合宿

3. 1. 場所

- ・ 東洋大学のセミナーハウスを二泊三日で利用する予定（鴨川、富士見高原、河口湖）
- ・ 3年ゼミ代表は4年ゼミ代表に相談して事前に抽選予約登録をすること。久松の教職員番号は0000203093です。
- ・ 2004年は山中湖（参加者は3年だけのため一泊二日、BBQ）、2005年は鴨川（参加者は3年12名と4年3名、花火・海遊び）、2006年は山中湖（参加者は3年生12名と4年生6名、花火・富士急ハイランド）、2007年は八王子の大学セミナーハウス（参加者は3年生10名と4年生11名、花火）、2008年は鴨川（参加者は3年10名と4年生6名、鴨川シーワールド）、2009年は富士見高原（参加者は3年11名と4年生6名、トランプ、BBQとほうとう作り）、2010年は富士見高原（参加者は3年13名と4年生11名、ビンゴと農場、サントリー工場訪問、川遊び）、2011年は河口湖（参加者は3年13名と4年12名、クイズ、富士急ハイランド）、2012年は伊東市山喜旅館（参加者は3年15名、4年15名、クイズ、BBQ）、2013年は河口湖セントビレッヂ（参加者は3年11名、4年15名、クイズ、蕎麦打ち、キューピー見学）、2014年は富士見高原（参加者は3年11名、4年13名、BBQ、クイズ、高原散策、ワイナリー見学）、2015年は河口湖（参加者は3年10名、4年15名、クイズ、温泉、散策、バトミントン）、2016年は河口湖（参加者は3年10名、4年8名、クイズ、富士急ハイランド）、2017年は山中湖（参加者は3年11名、4年12名、クイズ、信玄餅工場見学）、2018年は山中湖（参加者は3年11名、4年12名、食べ物あてクイズ、富士サファリパーク）、2019年は河口湖（信玄餅、ワイナリー見学）、2020年はオンライン実施。
- ・ **飲みすぎない**、騒がない。時間厳守や他人に迷惑をかける等の集団行動のルールをよく守る。

3. 2. スケジュール（二泊三日）

・ 一日目が4年生の卒論発表（約15分～30分）と4年生主催の3・4年対象のレクリエーション、二日目が3年生の企業比較レポートの発表と3年生主催のレクリエーションである。私は全ての発表にコメントをするが、4年生には3年生発表についてのコメンテーターを2本程度は分担してもらおう。4年生は去年の苦勞を思い出す。3年生は他を見て自分を知る。最終日は工場訪問（ワイナリー訪問を含む）などを企画されたい。

3. 3. 夏合宿の手引き作りとゼミTシャツ作り

余興や仕事の分担はゼミ代表・副代表のリーダーシップの元に、全員に仕事が行き渡るように配分すること。去年の手引きを参考により充実した手引きを作ってください。ゼミTシャツ（ポロシャツ）は前年を参考にして早めに作り出すこと。前年度の報告書を参考にして活動を進め、活動終了後は来年度に向けて報告書を作成すること。

（コラム1） 「国際学部国際地域学科とは何か」に対する久松の考え

「国際地域学科ってなにをやる場所？」と尋ねられたときの答えについて、久松の答えです。

- ① 日本語名では耳慣れないかもしれませんが、英語名だとわかりやすいです。Department of Regional Development Studies、つまり「地域」の発展を考える学科だということです。続けて、「地域」って何かというと、「まちづくり」例えば文京区白山の振興を考える先生もいれば、地方自治を考えている先生もいれば、発展途上国、例えばタイやパキスタンやメキシコの開発や発展を考えている先生もいます。つまり、ある場所を「地域」として定義し、その地域の発展を考えるための様々な手法を学ぶ学科だということです。

- ② 本学科の先生の大半は、自分の「現場」を持っています。自分の研究を文書だけでやっている先生はあまりいらっしゃいません。つまり、学生にも「現場」にでて、実際に体験をして、学んでもらいたいと考えています。その際、国際的に通ずる視野（「グローバル・スタンダード」）で考えながら、自分の地域に対して「現場調査」して欲しいと思います。つまり、Think Globally, Act Locallyです。これも国際地域学科への一つの考え方です。
- ③ 技術経営や公共経営を含めた、広い意味での組織経営を学ぶ学科です。本学科には多くの工学部出身の先生がいて、環境工学や水資源管理や防災や社会システムなどの技術を教えていらっしゃいます。これらの技術を学んで、どうやって様々な場面で活かしていくか、すなわち技術経営を学ぶ学科です。経営的な手法を学ぶ為に初歩的なマイクロ経済学やマクロ経済学を学び、それを上手に技術と合わせて活用できるようになることを期待します。また、地方自治などの分野でも公共部門を経営するという見方が期待されており、この意味でも先進的な学科です。
- ④ また別の考え方があったら教えてください。よろしくお願いします。

4. 国際地域学演習Ⅱ シラバス

4. 1. 秋学期スケジュール

年内は本を輪読、年が明けたら卒論のテーマ発表。テキストはできるだけ最新のものを選ぶため、遅くとも秋学期の第一回には明らかにする。ちなみに、**2020年**は入山 章栄『世界標準の経営理論』（ダイヤモンド社、2019年）。2004・05年は伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』（日本経済新聞社、2004年）、2006・09～19年は丸山雅祥『経営の経済学』（夕斐閣、2005年、新版2011年）、2007年はスザンヌ・バーガーとMIT産業生産性センター『MITチームの調査研究によるグローバル産業の成功戦略』（草思社、原著2005年、邦訳2006年）、2008年は浅羽茂『企業の経済学』（日経文庫、2008年）及び上田隆穂編『ケースで学ぶ価格戦略・入門』（夕斐閣、2003年）であった。

一冊の本を最初から最後まで全員で読むのが輪読であるが、決められた発表者が①レジュメを書き、②当日に発表し、③教員や学生から質問を浴びせられ、それに対してきちんと説明する、という形式で行う。序章は久松が担当する。第2章から最終章まで基本的に一人ないし二人で担当して発表する。担当者は共同分担であっても章全体を全て理解すること。発表をしないと単位は出ない。

	日付	内容	指定箇所	担当
1		輪読	<テキスト>序章	久松
2		輪読	第2章	(. .)
3		輪読	第3章	(. .)
4		輪読	第4章	(. .)
5		輪読	第5章	(. .)
6		輪読	第6章	(. .)
7		輪読	第7章	(. .)
8		輪読	第8章	(. .)
9		輪読	第9章	(. .)
10		輪読	第10章	(. .)
11		輪読	第11章	(. .)
12		輪読	第12章	(. .)
13		輪読	第13章	(. .)
(補講)		輪読	第14章	(. .)
14	1/	4年卒論発表会	3年生は質問・評価する	
15	1/	3年卒論テーマ発表	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬	
	1/	学科卒論発表会	3年生は4年生の応援をする	

注：冬休みの課題は「卒論テーマ発表」の準備である。

1月前半に久松ゼミ内定生を対象にゼミ・オリエンテーションを行う。また、卒論発表会頃にゼミコンパを行う。3年ゼミ代表・副代表が中心になって幹事を決め、予約・集金について計

画すること。4年と一緒に学期末コンパでも結構。久松ゼミに内定している2年生も呼ぶ。

4. 2. 推奨文献

- (ア) 浅羽茂『経営戦略の経済学』日本評論社、2004年。経営学の論点を中級ミクロ経済学の視点から説明した本。
- (イ) 浅羽茂『企業の経済学』日経文庫、2008年。初歩的な企業の経済学の教科書。(2008年の教科書)
- (ウ) 伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』日本経済新聞社、2004年。経済学でビジネスを読みとくわかりやすい本。ミクロ経済学に関心がある学生にお勧め。(2004年・2005年の教科書)
- (エ) 上田隆徳編『ケースで学ぶ価格戦略・入門』夕斐閣、2003年。価格戦略に絞っている。(2008年の教科書)
- (オ) 伊藤元重『伊藤元重のマーケティング・エコノミクス』日本経済新聞社、2006年。短くて読みやすい。
- (カ) 小田切宏之『企業経済学(第2版)』東洋経済新報社、2010年。企業について中級ミクロ経済学から論じた本。
- (キ) 大村敬一『ファイナンス論』有斐閣、2010年。ファイナンスの中級レベルの教科書。
- (ク) クレイトン・クリステンセン『イノベーションのジレンマ(増補改訂版)』翔泳社、2001年。英文の原著は2000年刊行。成功している企業がなぜイノベーションに乗り遅れて失敗するかを解明。
- (ケ) ハーバート・A・サイモン『システムの科学』パーソナルメディア、1999年。英文の原著は1996年刊行(初版は1978年)。企業を含む人工物をどのように見るかという古典。
- (コ) 産業再生機構『事業再生の実践』三巻、商事法務、2006年。産業再生を勉強したかったら絶対の必読書。
- (サ) 新原浩朗『日本の優秀企業研究』日本経済新聞社、2003年。丹念に日本の優秀な企業の特徴は何かを調査した本。どういう企業が良い企業なのかわかる。
- (シ) スザンヌ・バーガーとMIT産業生産性センター『MITチームの調査研究によるグローバル産業の成功戦略』草思社、原著2005年、邦訳2006年。バリュー・チェーン、モジュール化、アウトソーシング、オフショアリングの実態がわかる。(2007年の教科書)
- (ス) ゲイリー・ハメル&C.K.プラハラード『コア・コンピタンス経営』日経ビジネス人文庫、2001年。英文の原著は1994年刊行。他の企業には真似できない企業独自の核心を持つことが重要と議論する、経営学の良著。
- (セ) 藤本隆宏『能力構築競争』中公新書、2003年。トヨタ自動車の研究で世界的に著名な研究者による「技術・生産管理理論」を基礎とした経営学入門。
- (ソ) 藤巻健史『藤巻健史の実践・金融マーケット集中講義』光文社新書、2003年。わかりやすくオプションについて説明してくれる。
- (タ) A. ブランデンバガー&B. ネイルバフ『ゲーム理論で勝つ経営』日経ビジネス人文庫、2003年。英文の原著は1997年刊行。ゲーム理論というミクロ経済学のツールを使って経営を見た好著。
- (チ) カーリス・Y・ボールドウィン&キム・B・クラーク『デザイン・ルール』東洋経済新報社、2004年。英文の原著は2000年刊行。商品の設計という企業の価値源泉を研究した好著。
- (ツ) 松井彰彦=清水武治『ゲーム理論』三笠書房、2003年。ゲーム理論の入門書。
- (テ) 丸川知雄『現代中国の産業』中公新書、2007年。中国経済を産業から捉えるための必読書。
- (ト) 丸山雅祥『経営の経済学』夕斐閣、2005年(新版2011年)。神戸大学MBAの教科書。初中級のミクロ経済学の知識が必要。(2006・2009~18年の教科書)
- (ナ) ポール・ミルグロム&ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。名著で大著。
- (ニ) ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。刺激的な良書。しかし、難しいかも。
- (ヌ) David M. Kreps, 2004, Microeconomics for Managers, Norton. スタンフォード大学ビジネス・スクールでの講義が基となっている、経営者用のミクロ経済学。

4. 3. 就職活動とサブゼミ

夏や冬にはインターンシップがあり、冬には説明会、就職セミナーが始まり、同時にウェブを使つての(プレ・)エントリーが始まります。できるだけ、業種を3~4種決めて、最低70社、望むらくは最終的に100~200社程度は(プレ・)エントリーしてください。大学入学から今までにやったこと(アルバイト、勉強、留学、サークルなど)を学年四季別に紙に書き出して、その項目を繋げる共通要素を見つけてください(自己発見分析)。その共通要素と志望業界の関連を探してください(業界研究)。細かいことですが、就職スーツは、自分が志望する企業において入社後これを着て働きたい服装を準備してください。いつでも相談に乗りますので、いつでも7番研究室に来るか、電子メールでアポ(面会予約)を取ってください。

サブゼミでは、就職活動対策(SPI対策、ES対策、自己・他己分析など)をしてください。

4. 4. 秋のインターゼミ (11月初旬を予定)

2005 年は、専修大学経済学部国際経済学科の狐崎ゼミと卒業論文の発表会を兼ねたインターゼミ合宿(3・4年)をやりました。2006 年は東洋大学経済学部国際経済学科の三浦ゼミと一日インターゼミ(2・3年)でグループ・ディスカッションをやりました。2007 年はやりませんでした。2008・2009 年は専修大学狐崎ゼミとグループワークに関するインターゼミを白山キャンパスでやりました。2010～18 年は狐崎ゼミと日本大学経済学部(後に東洋大学)沼尾ゼミも招いてインターゼミを行いました。皆さんがホストです。ホストをやると企画運営の力が発揮できます。

4. 5. 2 年生対象のゼミ説明会や 2 年面談

秋学期には 3 年生にゼミ説明会をしてもらいますし、面談を希望する 2 年生に会ってもらいます。ゼミで「自分の頑張ったこと」を書くための自分を発見する機会になります。

4. 6. 各自の卒論に向けたテーマ発表 (冬休み課題)

まずは、自分が興味を持ったいくつかの問題から、調べられそうなテーマを選んでみてください。
書き方: 「卒論主題ミニレポートの書き方」を参考にすること。注意: 先行文献、参考文献、資料リストについて本や論文を 3 本以上。持ち時間 5 分程度(発表と議論)

4. 7. ゼミ内定生オリエンテーション

1 月末もしくは 2 月上旬に内定生へのゼミ・オリエンテーションに奮って参加してください。自分が成し遂げたゼミの成果を世代を超えて、下の代に伝える機会です。お願いします。

4. 8. OB・OG 会(11 月下旬を予定)

OB・OG 会は毎年 11 月下旬にやってきましたが、10 月下旬か 11 月上旬の大学ホームカミングデーに合わせるつもりです。軽くやります。社会人の先輩方の経験談を聞いてください。お暇なら参加どうぞ。

5. 春の一日遠足&夕飯会

就職活動中の格好の気晴らしになるので、できるだけ参加すること。予約や集合時間等は担当が相談して決めること。過去の事例: 2005 年は 3 月 29 日に日本銀行と東京証券取引所を訪問して六本木で中華料理、2006 年は 3 月 31 日に東京証券取引所と「感 どうする経済館」を訪問して月島でもんじゃ焼き、2007 年は 3 月 28 日に東京証券取引所と印刷博物館を訪問して月島でもんじゃ焼き、2008 年は 3 月 28 日に東京証券取引所と麒麟ビール横浜工場を訪問して月島でもんじゃ焼き、2009 年は 3 月 27 日に東京証券取引所、日本科学未来館そして月島でもんじゃ焼き、2010 年は 3 月 31 日に東京証券取引所、恵比寿寿酒博物館そして月島でもんじゃ焼き、2011 年は 3 月 31 日に東京証券取引所と靖国神社で花見(地震の為 ANA 整備工場がキャンセル)。2012 年は 3 月 21 日に東京証券取引所、羽田空港で昼食、ANA 整備工場見学、そして月島でもんじゃ焼き。2013 年は 3 月 29 日に東京証券取引所(株式投資シミュレーションを含む)、国会見学、そして月島でもんじゃ焼き。2014 年は 3 月 31 日に朝日新聞東京本社、築地場外市場、東京証券取引所(株式投資シミュレーションを含む)、上野公園で花見、そして月島でもんじゃ焼き。2015 年は 3 月 31 日にテレビ朝日、東京証券取引所(株式投資シミュレーションを含む)、上野公園で花見、そして月島でもんじゃ焼き。2016 年は 3 月 31 日に日本科学未来館で 3D プラネタリウム、昼食、東京証券取引所(株式投資シミュレーションを含む)、上野公園で花見、月島でもんじゃ焼き。2017 年は 3 月 31 日に国立科学博物館、築地場外市場で昼食、東京証券取引所(株式投資シミュレーションを含む)、月島でもんじゃ焼き。2018 年は 3 月 30 日に東京証券取引所、カップヌードルミュージアム、横浜中華街で中華料理食べ放題。2019 年は 3 月 29 日に東京証券取引所、鮎細工づくり(浅草)、月島でもんじゃ焼き。2020 年は中止。

6. 春休み宿題

卒論主題ミニレポート+先行文献リスト(約 20 件以上、未読で OK)。先行文献リストのなかでどの本が自分の研究に最も関連していて精読に相応しい本かを決めること。卒業論文の書き方に関する本について、自分に合った本の一つを選び、それを読むこと。

【参考情報: 内定後の課題】

ここ数年は、内定後に課題を出してコメント・ペーパーを書いてもらいました。2010～2011 年度は山岸 俊男&メアリー C・ブリントン『リスクに背を向ける日本人』(講談社現代新書、2010 年)、2012 年度は冬休みに一本、春休みに滞在レポートと読書レポート。課題本はダレル・ハフ『統計でウソをつく法—数式を使わない統計学入門』(ブルーバックス、1968 年)にしました。滞在レポートは内定者 13 名中 9 名が海外での滞在記を書きました。2013 年度以降は二本、課題本はダレル・ハフ『統計でウソをつく法—数式を使わない統計学入門』(ブルーバックス、1968 年)、もう一つは春休みの活動。留学に行く人は英語で書いてもらいました。

6. 1. 卒論主題ミニレポートの書き方

日付： 201X年1月〇〇日

名前： 〇〇〇〇（東洋大学国際地域学部〇年 学籍番号〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇）

論文テーマ： 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

①なぜこの主題に取り組もうと思ったか（動機・きっかけ）

ここではまず、どのように自分のテーマと出会ったかをできるだけ具体的に書くことが重要である。例えば、『日経ビジネス 2004年〇月〇日号を読んでいたら面白い記事にであった。それは「〇〇〇〇〇〇〇〇」という記事であった。』などである。情報源は、本・雑誌・新聞・ラジオ・テレビ・インターネットのどれでも構わない。次に、それがなぜ面白いのかを説明することが重要である。例えば、『この事実は、我々が伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』で勉強した点と異なっている。伊藤によれば、「〇〇〇〇〇」(〇〇ページ)であるはずなのに、現実はそうではなく、そして十分に上手くいっているようである。』などである。字数の目安は500～600字程度である。

②主題をどのような手法で深めて論文に仕上げていくか（手法・道具）

どうやって主題を研究していくかを書く。一般的には参考文献を読み出すというのが普通である。例えば、『この分野の概説書である〇〇を現在は読んでいるところである。これによれば、〇〇〇〇〇〇であることがわかった。』などである。また、事前調査として簡単なアンケートやデータ分析をしてもよい。例えば、『この点について自分の問題関心を確かめるために、知人10人ほどに簡単なアンケート調査をした。その結果は自分の〇〇という予想と整合的だった。』であるとか、『この事実を確認する為に、有価証券報告書をダウンロードし、ライバル企業である〇〇と比較してみた。すると、実際に〇〇が正しいことがわかった。』などである。大まかに春休みの終わりまでにどんなことをするかを書いて欲しい。字数の目安は400～500字程度である。

③このテーマを研究して得たいと思う結果（期待される結果）

まずは書いてみるのが重要である。心配しないで欲しい、最後まで同じ結果になるということはありません。例えば、『松本市民会館改築事業はPFIで行なったほうがより安価であっただろう。』とか、『日本の外食産業で求められる成功の要因とはその業態の特徴をつかむこととスピードである。』とか、『オートバイ産業のアーキテクチャはモジュラー型とインテグラル型の変遷にあり、そのことは海外進出による海外生産において影響を及ぼす。』などである。字数の目安は200字以内である。

④参考文献

別紙の書き方を見習って、参考文献リストを作る練習をして欲しい。春学期になったら、最低30件は載った参考文献リストを提出してもらうので、今から練習しておくこと。当面は、外国語文献と日本語文献は分け、前者はアルファベット順、後者はアイウエオ順で並べること。

MS-Wordのページ設定： 余白は上下右左すべて20mm。文字数と行数はそれぞれ45と40。フォントはMS明朝の9ポイント。

発表の順番： 1月〇〇日 ① _____ ② _____ ③ _____ ④ _____
⑤ _____ ⑥ _____ ⑦ _____ ⑧ _____
⑨ _____ ⑩ _____ ⑪ _____ ⑫ _____

6. 2. 卒業論文までの見通し

201X年1月 卒論題目発表練習（目的：4月末の本番の卒論題目発表の練習をする。注意：このときに発表したものと4月末の本番で発表した内容は変わっていてよい。「このような発表をすると、どのような突込み（質問や意見）が学生・先生から入るのか」を実際に体験して、本番ではできるだけ予想される突込みに備えた発表にすること）

201X年春休み 自分の卒論題目を決め、参考文献リストを作り始める（配布する『卒業論文執筆必携』を参照のこと）。参考文献リストは、すべて読んでいなくても構わないが、それがどこ（の図書館・本屋等）で入手可能かは目安をつけておくこと。その際には、OPAC (<http://triton.lib.toyo.ac.jp/>) や WEBCAT (<http://webcat.nii.ac.jp/>) を利用するとよい。そのほか、論文の書き方についての本を読んでおくこと。

201X年四月末（国際地域学演習Ⅲの第一回） 実施日については掲示で予告するが、現在のところ4月〇〇日の予定。国際地域学演習Ⅲは金曜日2限に開講される予定。全員が①卒業論文主題ミニレポート（A4×1枚）と②参考文献リスト（A4×1枚以上）を提出すること。参考文献リストに記した文献は全て見ていなくても全く構わない。文献は約20本が記載されていることが条件。また、この参考文献リストの中で、精読（意味を厳密に正確に全てわかるような読み方）をしようとする文献を一つないし二つ決めておく。当然、精読文献は自分の卒論執筆において理論的な手がかりとなるものであり、参考文献の多く付いた本のほうが良い。

<卒業論文題目提出届の提出を忘れないこと！>

201X年春学期（国際地域学演習Ⅲ） 参加者はミニレポート＋参考文献リストを提出後、発表が最低三回ある。春学期の目標は先行文献の消化と第二章の執筆である。第一回は、各自が参考文献リストの中で決めた精読文献を30分で発表すること（レジュメはA4×2枚まで）である。ここでは、精読文献の紹介の後、自分の「質問」が明らかにできるとよい（「どうして〇〇は××なのか？」もしくは「〇〇は△△と言われているが、実際にデータをとって調べられていないので本当かどうか試してみよう？！」など）。「自分自身の発見」がどのあたりになりそうかを真剣に考え始めよう。第二回の発表は、別の精読文献の発表である。但し、第一回の発表で自分の「質問」が明らかになった人は、それについてのデータによる実証分析を始めるとよい。第三回の発表は、夏休みに向けて、「卒論の仮目次（第一版）」（A4×1枚）・「精読文献を含めた先行文献の紹介と問題の所在の究明（＝第二章）」（A4×8枚以上）・「拡張された参考文献リスト」（A4×1枚以上）の提出と発表である。これが提出され、きちんと書いてある（盗用厳禁！）と演習Ⅲの単位を差し上げる。10枚書いて単位をもらおう！**なお、自分の「質問」は『なぜ〇〇はこうなったのか』という過去についての質問であること。未来は誰にもわからない。先行文献研究10枚を書いて3回発表しないと単位は出ません。**

201X年夏合宿 参加者は「卒論の仮目次（第二版）」・「卒論の仮要約（第二版）」（合わせてA4×2枚）と「夏休みの成果」を発表して頂く。「夏休みの成果」はまとめた文章（第四章）であってもよいが、自分の「発見」となるオリジナル（手製）の図表1枚以上でも構わない。自分の「質問」が明確に示され、それがだいたい解けていることが目標である。まだ厳密に解けている必要はない。

201X年秋学期（卒業論文） 第二章（先行文献紹介＋自分の「課題」の提示、春学期に書いた草稿の手直し）⇒第三章（自分のテーマについてのきちっとした説明）⇒第四章（自分の「質問」の解明もしくは自分の「発見」の提示）⇒第五章（結論と今後の課題）⇒第一章（初めに）⇒要約、という執筆順番が標準。但し、第二章と第三章は逆になる場合もある（論文の性格によって変わる）。論文の題はセクシーであることを心がけること。

卒業論文には、自分の論文の売り(sales point)を明確に示した図を必ず載せること。その他にも、上手に図表を利用することが読者にわかりやすい論文の鍵である。

論文目次例：

第一章	初めに（なぜ私はこの問題に取り組むに至ったか、研究動機）
第二章	先行文献研究とその問題点（問題の所在）
第三章	研究方法（私の質問の設定・説明・解決方法）
第四章	研究結果（私の質問の解決）
第五章	結論と今後の課題

201X年12月 卒業論文提出<この時期には、形式33%、時間管理33%、中身34%で注意を払うこと>

<卒業論文は形式が不足だと受取を拒否されるので注意！>

201(X+1)年の第一回の授業 3年生の前で要約もしくはパワーポイントを使って卒論発表。卒論発表会参加者を決定。参考文献（論文の書き方、研究方法についての本は数限りなくある。自分に合った本を選ぶことが必要）：木下是雄『理科系の作文技術』中公新書（624）、1981年。<文科系にもあてはまる論文の書き方の古典> 小浜裕久、木村福成『増補版 経済論文の作法：勉強の仕方・レポートの書き方』日本評論社、1998年。<経済論文の書き方> キング、コヘイン、ヴァーバ『社会科学のリサーチ・デザイン』勁草書房、2004年（原著1994年）。<社会科学の実践的方法論>

(コラム2) 就職活動の昔と今

久松は1990年に就職活動をした(1991年卒業)。結局は、大学院に進学したわけだが、大学院に受かるかもわからず、また、会社訪問や就職活動にも興味があったので、かなり本気で就職活動をした。当時は、経営者団体と大学団体との間で「就職協定」というものが結ばれていて、あまりにも早く就職活動が始まると学業を損なうという理由で、就職活動ができる時期を制限していた。うろ覚えだが、4年生の7月頃に設定されていたと思う。しかし、毎年、どこかの企業が「就職協定破り」をして、それを合図になし崩し的に業界ごとに就職活動が始まってしまうのであった。とはいえ、3年生が終わった3月にOB訪問をしている人はあまりおらず、実際は4月頃にOB訪問が始まり、5・6月に業界ごとに集中的に面接があり、一括して内定が決定してしまうという形であった。以降はほとんど就職活動自体が無かった。毎年の企業のフライングによって就職協定は形骸化し、数年後には結ばれることもなくなった。以降、就職活動は早まっていった。簡単に言うと、100メートル競走のような就職活動だった。

現在の学生の就職活動を東洋大学生に限らず観察すると、10月頃に説明会やセミナーが始まり、11月にはホームページを使った(ブレ・)エントリーが始まり、1月には試験や面接が始まり、2・3月に正念場を迎え、3月末から4月頃には内定が出る。同時に、第二次のエントリーや面接が平行して行なわれ、夏前にもまた内定が出る。更に、秋の就職活動をする企業さえある。また、業界によってセミナーや面接の開始時期が異なるようだ。まとめると、私の頃と比べると、就職活動は長丁場であり、持続する体力と気力を要求するものになった。簡単に言うと、1人駅伝のような就職活動になっていると思う。重要なのは、襻を自分から自分に繋げることなのだ。

ところが学生への質問内容を見ると、自己紹介や志望動機に加えて、学生時代に何に打ち込んだとか、所属ゼミでは何を勉強しているかとか、15年前とあまり変わらない質問をしているようだ。とすると、久松の体験に基づくアドバイスも、時期が早くなったことを考慮すれば、それなりに使えるということになるかもしれない。

アドバイスその1は、3年生の夏の過ごし方である。企業側が学生時代に何に打ち込んだかというストーリーを求めているとすれば、3年生の夏が最後のチャンスである。焦点を決めてストーリーを作って欲しい。アドバイスその2は、企業側は基本的に「後ろ向きよりは前向き」・「悲観的よりは楽観的」な人間を求めている。自分が後ろ向きかつ悲観的な人間だと思っても、自分の中にある「前向き」要素や「楽観的」要素をかき集めて、就職活動に望んで欲しい。アドバイスその3は、企業側の担当者も、所詮、自分より何歳か上の人間である。調子や機嫌が悪いときもあるし、馬が合わない人だっている。それが原因で自分が面接で落とされて、落ち込むことだってある。その際は、落ち込むのは構わないが、短期間で回復しよう。世の中、自分に合った就職先は複数ある。**Fortune favors prepared mind.** (幸運はよく準備をした人に味方する)

<コネタ>自分が就職迷子だと思ったら読んで頼りになる本(研究室にあります。図書館にもあると思います。)

海老原嗣生『2社で迷ったらぜひ、5社落ちたら絶対読むべき就活本』プレジデント社、2011年。

小島貴子『就職迷子の若者たち』集英社新書、2006年。

辻 太一郎『採用力のある面接: ダメな面接官は学生を逃す』生活人新書、2007年。

(コラム3) 久松の好きな言葉

- ① One must learn by doing the thing; For though you think you know it, you have no certainty, until you try. (Sophocles, c. 496-406 B.C.)
- ② 知己知彼百戦百勝 (孫子)
- ③ Fortune favors prepared mind. (伝ルイ・パスツール)
- ④ A mistake is not something to be determined after the fact, but in the light of the information until that point. (Nassim Nicholas Taleb, Fooled by Randomness)
- ⑤ The market can remain irrational longer than you can remain solvent.

7. 国際地域学演習 III

最初に引用と参考文献を書く宿題を行う。参加者はミニレポート+参考文献リストを提出後、発表が最低三回ある。春学期の目標は先行文献の消化と第二章の執筆である。第一回は、各自が参考文献リストの中で決めた精読文献を30分で発表すること（レジュメはA4×2枚まで）である。ここでは、精読文献の紹介の後、「自分の質問」が明らかにできるとよい（「どうして〇〇は××なのか？」もしくは「〇〇は△△と言われているが、実際にデータをとって調べられていないので本当かどうか試してみよう?!」など）。「自分自身の発見」がどのあたりになりそうかを真剣に考え始めよう。第二回の発表は、別の精読文献の発表である。但し、第一回の発表で自分の「質問」・「発見」が明らかになった人は、それについてのデータによる実証分析を始めてもよい。第三回の発表は、夏休みに向けて、「卒論の仮目次（第一版）」（A4×1枚）・「精読文献を含めた先行文献の紹介と問題の所在の究明（＝第二章）」（A4×8枚以上）・「拡張された参考文献リスト」（A4×1枚以上）の提出と発表である。これが提出され、きちんと書いてある（盗用厳禁!）と演習 III の単位を差し上げる。10枚書いて3回発表して単位をもらおう!

回数	日付	発表者（1回に3人）	
第一回	4/11	全員	キックオフ発表
第二回	4/18		発表準備
第三回	4/25		①
第四回	5/9		①
第五回	5/16		①
第六回	5/23		①
第七回	5/30		②
第八回	6/6		②
第九回	6/13		②
第十回	6/20		②
第十一回	6/27		③
第十二回	7/4		③
第十三回	7/11		③
第十四回	7/18		③
第十五回	7/25		先行文献研究提出準備

注意点：3年生への指導を行なうこと（教えると頭が良くなる）。8/1も先行文献研究提出準備の予定。8/8が発表会の予定。

7. 1. 春のインターゼミ（7月上旬を予定）

基本的に就活が終わった人は参加可能&歓迎。

8. 夏合宿

- ・スケジュール（二泊三日の予定）
- ・一日目が4年生の卒論発表、二日目が3年生の企業比較レポートの発表。
- ・4年生にはそれぞれ3年生発表へのコメント担当を勤めてもらいます。私と一緒にコメントしてください。また、事前準備において三年生の相談によく乗ること。教えることは最大の勉強方法です。

・飲みすぎて騒がない。飲み過ぎて潰れない。集団行動のルールをよく守る。

8. 1. 夏合宿の課題

参加者は「卒論の仮目次（第二版）」・「卒論の仮要約（第二版）」・「夏休みの成果」（合わせて A4×2 枚）を発表して頂く。「夏休みの成果」はまとまった文章（第四章）であってもよい。自分の「発見」となるオリジナル（手製）の図表 1 枚以上でも構わない。自分の「質問」が明確に示され、それがだいたい解けていることが目標である。まだ厳密に解けている必要はない。合わせて、3 年生発表のコメントーターをやること。これは格好の復習である。

9. 卒業論文演習

第二章（先行文献紹介＋自分の「質問・課題・問題」の提示、春学期に書いた草稿の手直し）⇒第三章（研究方法＝自分の質問を解く方法の提示）⇒第四章（研究結果＝解いた結果）⇒第五章（結論と今後の課題）⇒第一章（初めに）⇒要約、という執筆順番が標準。但し、第二章と第三章は逆になる場合もある（論文の性格によって変わる）。自分の論文のセールス・ポイントは何か？それを考えながら、**卒論の題名はセクシーなものにしましょう。** 卒業論文は「五年後の自分」へのプレゼントです。

学期スケジュール（予定）10月10日～@研究室で午前10時から（一人報告20分）

回	日付	予定	発表者（1回に4人まで）
①	9/26	発表グループ決定	
②	10/3	個別相談（事前アポ必要）	
②	10/10	第一回（第二章の確認と第三章）	
③	10/17		
④	10/24		
⑤	10/31		
⑥	11/7	第二回	
⑦	11/14		
⑧	11/21		
⑨	11/28	第三回	
⑩	12/5		
⑪	12/12	予備日（アポ不要）	誰でも研究室に相談に来てもいいです。
	12月17日	卒業論文提出日第一日	
	12月18日	卒業論文提出日第二日	
	1月9日	卒業論文ゼミ内プレゼン	1月最初の水曜日 4・5 時限の予定
	1月28日	学科内卒業論文発表会	

典型的な卒論の構成（他の構成もあるので相談してください）

	題	内容	書く順番、ヒント
第一章	はじめに	動機、つかみ、なんでこの論文が書きたくなったか	最後に書く、もしくは、他の部分を書きたくないときに書く
第二章	先行文献研究	このテーマについて先人た	最初を書く、演習Ⅲの結果＋α、ここ

		ちは何を研究してきたか、最後に自分の質問を出す	でページ数を稼ぐ[第一回]
第三章	研究方法	自分の質問をどういう方法で解くつもりか	人の真似でよい、自分がどういう方法を使っているか明示的にする[第一回]
第四章	研究結果	自分の質問を解いた結果	何か自分オリジナルの発見を出す[第二回・第三回]
第五章	結論	要約+今後の課題	卒論の要約を書いて、やり残したことを今後の課題として書く

9. 1. 秋のインターゼミ (11月上旬を予定)

基本的に就活が終わった人は参加可能&歓迎。

9. 2. OBOG会 (10月下旬 or 11月上旬を予定)

9. 3. 新年会もしくは学期末コンパ

新年会は4年生の卒論お疲れ様会、3年生の学期末コンパとゼミ内定生の歓迎会を兼ねています。新年会の企画と連絡は3年生にお願いします。

9. 4. 卒論発表に向けて

3年生の前で要約もしくはパワーポイントを使う卒論概要発表を年明け最初の3年ゼミにやります。それから、久松がよく卒業論文を読んで、卒論発表会参加者を決定します。

プレゼンを良くするための参考文献:

ロバート・R・H・アンホルト『理系のための口頭発表術』講談社ブルーバックス、2008年。例は理系だが、文系の発表も同じ。

9. 5. 卒業宴会

最近は大久松家で宴会をやっています。謝恩会もしくは卒業パーティでもお会いしましょう。

10. 当然の常識と頭がよくなる秘訣

10. 1. 当然の常識

- ① 盗作をしない。盗用と引用は違います。
- ② その章の担当であれば、共同で担当していてもその章は全て読んで調べる。
- ③ レジューメは名前・番号・書名・担当部分名・ページ番号・番号振りを含まなければならない。
- ④ 段落の頭は一字あける。一段落は複数の文を含んでいる。
- ⑤ 期限は守る。欠席する場合にはメールで連絡する。
- ⑥ 重要な相談や頼みごとであれば事前にメールで面会約束をする。
- ⑦ 電子メールには冒頭に宛先の名前、末尾に自分の名前を書く。

10. 2. 頭がよくなる秘訣

- ① 図や表を書きながら勉強すると頭が良くなります。
- ② 他人に教えると自分の頭が良くなります。
- ③ 勉強会や読書会を学生同士でするとお互いに頭が良くなります。

11. これまでの卒業論文

2005年度卒業

・ 四家武志『外食産業における企業戦略』

- ・ 須藤みちえ『日本のオートバイ産業の海外進出』
- ・ 田中元輝『PFIで考える松本市民会館改築事業』
- 2005年度卒業
 - ・ 李 香『インターネットにおける価格付け』(9月) *
 - ・ 吉田徳史『介護マーケットの将来予測:介護市場は今後どのように成長するのか』
 - ・ 喜田祐子『コストを抑えて強い球団を作るためには:プロ野球球団の総年俸の高さと球団成績の関係性』
 - ・ 高橋麻衣子『外資系ホテル東京大進出:その原因の解明』 *
 - ・ 片平智子『富裕層の資産運用』
 - ・ 陳彦伶『アジア地域における台湾メディアセンター:台湾メディアの変遷と弱点』 *
 - ・ 梁 春盛『中国の対外貿易:繊維産業を中心に』
 - ・ 金 玄『中国住宅事情のバブル:上海住宅事情について』
 - ・ 金 振旭『日本フード産業の考察:日本フード産業の拡大要因に焦点をおいて』
 - ・ 金 照哲『低価格衣料品における企業の競争戦略:ユニクロとしまむらの比較分析』
 - ・ 付 榕『中国の観光業:先行文献研究と北京市の観光計画』
- 2006年度卒業
 - ・ 陳 科『中国電子産業の台頭:ハイアール集団の事例から』(9月)
 - ・ 野畑祐一『プロサッカークラブの経営:リスクを最小限に抑えた常勝クラブを作るには』
 - ・ 羅傑『中国の道で走る中国自動車産業:製品開発戦略とマーケティング戦略の視点から』 *
 - ・ 宮城朝江『小売業界の大編成時代:明暗を分けた戦略』
 - ・ 星野さやか『感情と勘定の経済学:なぜブランドを選んでしまうのか』
 - ・ 齋木映美『デパ地下の経済学:売れる売場の法則』 *
 - ・ 箕輪美香『社会を生き抜く企業たち:CSRで道を切り開けるか』
 - ・ 任曉冬『これから中国で儲ける産業:外食産業のチェーン化』
 - ・ 塚下賢太『ゲストを満足させる経営とは:テーマパークにおける財務分析と顧客サービスの実態』
- 2007年度卒業
 - ・ 近藤 仁志『ブランドが支えるスポーツビジネス』
 - ・ 菊澤 絵美子『メーカーの経済学』
 - ・ 牧野 正男『永続する優秀企業の条件』
 - ・ 野並 馨『ファーストフードの潜在能力と戦略』
 - ・ 石島 加奈絵『働く世界の女性たち』
 - ・ 松原 洋平『日本金融システムの変遷』
 - ・ ワン ヤンヤン『携帯電話は自動車のようになれるのか』 *
 - ・ 青木 匠史『ロコミサイトの信頼性』
 - ・ 永田 真弘『時速300kmの世界で』 *
 - ・ 高田 由貴『未来の通貨』
 - ・ 尾辻 敦『学習塾経営論』
- 2008年度卒業
 - ・ ワン ヤチン『正しい『パチンコの経済学』』 * (9月)
 - ・ 武井正樹『企業再生の分析』
 - ・ 小見川卓也『レント・シーカー』
 - ・ 朱 湘萍『新聞のビジネスモデル』
 - ・ 小池環斗『ライブハウスの矛盾』
 - ・ 木村和幸『メッキを塗ったプレステージブランド』
 - ・ 鷺澤優介『聯想はグローバル市場で成功したか』 *
 - ・ 青木啓祐『強い球団の作り方』
- 2009年度卒業
 - ・ 江連 怜『マンガ週刊誌の三大勢力合戦』
 - ・ 野方千聖『ネットワークビジネスについて』
 - ・ Charoenchai Tongsook『高い競争のアパレル業界でなぜユニクロが売れているのか』
 - ・ 高橋大樹『大地震における地域コミュニティの重要性』
 - ・ 本橋 陽『地方銀行の成功』
 - ・ 大内博文『ホントの書店業界の現状を知る』
 - ・ 張 浜『海外直接投資による中国の経済発展』
 - ・ 呉 敏敏『どんなカバンを買うか』
 - ・ 小林伸行『持続可能な森林経営の実現』
 - ・ 孔 麗君『地球温暖化における中国の排出権取引』
 - ・ 白 今英『電子マネーについて』
- ・ 木村亮介『00年代の社名変更』 *
- 2010年度卒業
 - ・ 小林 淳一『消費者のニーズに応える自動車メーカーとは』
 - ・ 二野 俊太『外資系スーパーの企業が中国進出で成功する秘訣』
 - ・ 勝又 綾奈『ボタンの国際貿易』 *
 - ・ 片野 幸宏『水道事業の経済学』
 - ・ 相馬 正聡『こんにやくの経済学』
 - ・ 武田 恵裕『企業の環境経営』
 - ・ 小田 誠『ゲレンデの経済学』
 - ・ 鈴木 麻里子『生き残るアウトレット・モールとは』
 - ・ 山川 英希『チケット販売業者の存在意義』
 - ・ 塩野 優『中規模温泉地の成功モデルとは?』
 - ・ 平山 佳緒里『道の駅を成功させる要因とは?』
 - ・ 塚本 智之『農業行政の問題点』
- 2011年度卒業
 - ・ 小林 智美『市町村合併の短期的評価—上田市(上田、丸子、真田、武石)地域の場合—』
 - ・ 大竹 優太『農業事業体の統計学的考察—家族経営から法人化へ—』
 - ・ 村田 裕香『日本はイギリスに迫れるか—成田国際空港とヒースロー空港の経営比較分析—』
 - ・ オウ ギョクフン『ハイアールはグローバル市場で成功したか—韓国・日本の企業との比較から—』
 - ・ 齊藤 亜弥『優れた広告は投資が必要か—マーケティング・ミックスを交えたデータ分析—』
 - ・ 関根 加織『年代で変わる音楽との関わり方—一人々の音楽の聴き方—』
 - ・ イ ボギョン『棚から牡丹餅であった韓流ブーム—韓流ブームの文献研究—』
 - ・ 菊地 孝太『日韓人の就職活動—日韓における就職活動の実態と問題の比較分析—』
 - ・ 山田麻衣『マンガの海外進出—日本製が受け入れられる瞬間—』 *
 - ・ 松島 真仁『過去から現在までの不動産市場の考察—賃貸市場の今—』
 - ・ 花澤 俊介『飼い主はなぜペット保険に入らないのか—ペット産業におけるペット保険の普及率について—』
 - ・ 大山 亜紅『5段階評価でみる殿様の通信簿—「土芥寇讎記」のデータ分析—』
 - ・ 高橋 英司『大学野球の真実—勝てるチーム・プロに進む選手の共通点—』
- 2012年度卒業
 - ・ 坪内 史織『昭和19年、日本の“優勢”—昭和18年度総力戦研究性のシュミレーションの研究—』
 - ・ 福富 玲那『エジプト古王国神官団の出世—輪番制の性質からみる地位の変化—』
 - ・ 升田 奈美『ゾーニングはニューヨークの街をどのように変えたか—ニューヨーク市のゾーニング規制—』
 - ・ 伊藤 雄樹『生き残った信用金庫—データから見る統廃合した信用金庫・生き残る信用金庫の特徴—』
 - ・ 葉 振威『24時間営業の遊園地—ドン・キホーテは中国で成功するか—』
 - ・ 三上 彩『災害時におけるコンビニの役割—東京港区を事例として—』
 - ・ 丹羽 理那子『『街ナカ』より『駅ナカ』—鉄道事業者の多角化戦略再検討—』
 - ・ 菅野 裕文『秋田県における除雪作業—5県の豪雪地域との比較—』
 - ・ 田中 光徳『「ゆるキャラ」の実像—キャラクター業界の新星の正体とは—』
 - ・ 橋本 俊貴『匿名と匿名性についての研究—「匿名性」から見る匿名の意味—』
 - ・ 片岡 明子『日本のソーシャルメディアに「標準」はあるのか—日本3大SNS企業の財務比較分析—』
 - ・ 須賀 彩華『ユーロ圏は『最適』通貨圏なのか?—アメリカ4州との財政移転・労働移動の比較から—』
 - ・ Takayo AZAMI, Analysis of Airline Demand: What Changes Are Needed to Increase the Airline Demand?

- ・ Kaori AYABE, Does Nitōri's Road Lead to the World? Comparative Analysis of Nitōri and Ikea. *
- 2013 年度卒業
 - ・ 大東 裕己『F1 シンガポール GP、観光政策からの考察—F1 日本 GP の鈴鹿サーキットとの地域性比較』
 - ・ 佐藤 芽衣『アニメから時代をのぞく—データ分析からわかる内容の変化』
 - ・ 山田 晃大『日本における北欧型福祉モデル実現の可能性—母子・児童福祉の観点から』
 - ・ 若林 莉絵『林業衰退は限界集落の引金となるか—森林から読み解く北海道限界集落の実態』
 - ・ 本多 由布子『温泉地のビジネスモデルについて—“まち歩き型”と“パーツ型”』
 - ・ 藤倉 りお『感情が左右する—インターネット上の発言と景気の関係』
 - ・ 金 大承『サムスンとパナソニックの比較財務分析—意思決定の速さが利益になる時代』
 - ・ 鈴木 翔太『CD 売上低下と大規模ライブ—大規模ライブ戦略の研究』
 - ・ 石井 良平『パーソナルコンピュータと人々の関わり—80 年代に見るパソコン利用のカタチ』
 - ・ 小島 昇『ホームアドバンテージの要因に関する考察—J リーグにおけるその正体とは』
 - ・ 趙 恩珠『女性労働の変遷—法律、社会通念、現実との相互関係』
 - ・ 松岡 優介『国際バカロレアが日本の教育を変える—スパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール事業との比較分析』
 - ・ 豊田 美幸『社会運動が起きにくくなるのはなぜか—人々の発展の礎を築く』
 - ・ 榎田 梨乃『循環型社会の教科書 江戸—屎尿処理の観点から江戸の社会を考える』
- ・ Hana NISHINAKA, Brand Strategy of Belgian Beer in Japan: How the expensive beer got popular among Japanese people *
- 2014 年度卒業
 - ・ 築地 拓実『新たな市場機会を得た民間軍事会社—イラク戦争とアフガニスタン戦争から考察—』
 - ・ バク ヨンソン『アップル社の四半期ベース財務分析—アップルは変革のリーダーからただの良い企業になるのか—』
 - ・ 鹿島 奈津希『キャラクターのライフサイクル—日本の人気キャラクターの育ち方—』
 - ・ 川田 美月『江戸時代における利根川水運の分析—江戸と東北を繋ぐ大動脈の姿—』
 - ・ 渡部 祐介『カンボジアの教育的収斂と経済的収斂—就学率と職業の観点から—』
 - ・ 森田 麻衣子『通訳案内士、外国人観光案内所の現状—観光先進国への問題点—』
 - ・ 熊谷 香織『人は意外に合理的—「アレのパラドクス」の検証—』
 - ・ 小林 優介『映画は社会の変化を反映するの—女性の社会進出を事例に—』
 - ・ Chiharu OGAWA, The Career Development towards International Volunteer: Studying UN Volunteers and Japan Overseas Cooperation Volunteers
 - ・ Miwa HAYASHI, Three Lessons Japanese Organic Food Retailers Can Learn from American Counterparts: Comparative Analysis of Whole Foods Market and Wal-Mart
 - ・ 加藤 ちか『日本のキャリア形成から見る人事の専門性—どうやって人事のプロフェッショナルになるか—』
 - ・ 岩崎 仁美『子どもを取り巻く環境と子育て支援施策に関する考察—地域の特性に応じた子育て支援の展開—』
 - ・ 濱田 響子『日米のショッピングセンター比較分析—くつろげる空間と生活利便機能から見る日本の特性—』 *
- 2015 年度卒業
 - ・ 小田 悠莉 『日米航空会社の財務分析—ANA とサウスウエスト航空—』
 - ・ 後藤 勇司 『日本がイギリス・オランダの自転車事情から学ぶことについて』
 - ・ 陳 南曦 『中国の商用車市場分析—国境を越えた戦略提携の始まり—』
 - ・ 山下 美音 『レンタルビデオ業界の盛衰の考察—群雄割拠時代から大手二社の席巻劇—』
 - ・ 鈴木 裕太 『公共放送 NHK の受信料について—支払率の差とその要因—』
 - ・ 中川 瑛里 『世界と戦う日本の医療機器企業—株式会社オリンパスとテルモ株式会社の比較財務分析—』
 - ・ 阿部 美月 『食の変化—消費者の変化と財務分析で見る企業の変化—』
 - ・ 平野 菜津子 『日本の酒税と経済について考察する—明治の日本を支えた日本酒—』
 - ・ 鈴木 歩 『再生可能エネルギー推進政策比較分析—日本、ドイツ、スペイン、イギリスの FIT—』
 - ・ 関 菜花 『将来の夢は叶うのか—実現可能性の視点で見た女子小学生の将来の夢—』
 - ・ 森本 彩夏 『妻の有業率と夫の所得の相関関係における統計学的考察—ダグラス=有澤の第一法則の有効性—』
 - ・ 今野 友里江 『MOOCs Phenomenon in the United States: Where the enthusiasm come from?』
 - ・ 小澤 勇輔 『2005-2014 年度の優秀企業研究—財務指標から選出された優秀企業の特徴—』
 - ・ 森木 真奈 『久喜市と川越市の比較祭り分析—川越まつり、久喜提灯祭り、久喜市民祭りの役*』
- 2016 年度卒業
 - ・ 川田 直人 自分の住んでいる町の数字からわかるもの
 - ・ 國米 可那子 How Much Money Do We Need To Pay To Get Married?
 - ・ 堀 風花 より良い意思決定のための行動経済学的考察
 - ・ 松本 郁乃 肥満とやせの行動経済学
 - ・ 池澤 真子 日本の遊園地とテーマパークの料金設定
 - ・ 上田 真弓 百貨店の黄金期に関する研究
 - ・ 三宝 菜穂 日本におけるフェスの傾向と特徴
 - ・ 島田 優菜 活気ある商店街の特徴
 - ・ 三浦 裕介 大手電機メーカーの転換点
 - ・ 関 健吾 NPO における人材管理と組織形態*
 - ・ 田村 彩紀 Social and Emotional Skills in Latin America
 - ・ 坪田 実咲 The Effect of the Negative Interest Rate Policy on Japanese Banks
- 2017 年度卒業
 - ・ 榎本 恵美 The Gender Gap in European Education Policy: Erasmus Programme Comparing the situation between 2011 and 2013
 - ・ 鈴木 千夏 化粧品業界の変化から見る日本の社会情勢—現代社会を化粧品から紐解く
 - ・ 伊藤 裕希乃 『君の名は。』 翻案分析—映画と小説、ふたつの物語表現
 - ・ 岡村 龍治 選ばれる外食企業—ブランド数からみた外食企業の戦略比較分析
 - ・ 中野 純平 日本のハウジング史からみた空き屋発生メカニズム—埼玉県の市町村別の空き屋数、空き屋率をもとに
 - ・ 比嘉 寛士 埼玉県内の金融機関の行く末—一時系列からみる収益性分析
 - ・ 豊田 莉菜 諸外国から見るキャッシュレス化のヒント
 - ・ 鈴木 琢水 データで読み解く日本のメディアミックス
 - ・ 内田 悠貴 位置情報ゲーム「Ingress」を用いた自治体での観光振興の取り組み—神奈川県横須賀市と東京都中野区の事例研究によるモデル構築
 - ・ 小川 梓美 Matchmakers for Regional Development: An Analysis of Tourism Projects through Lens of Multisided Platform Business Models
 - ・ 金丸 葉月 チョコレートが示す世界各国の動向—カ

カオ豆のサプライチェーンの変容

- ・ 伊藤 夏生 フルサービス喫茶店の人気の裏側
 - ・ 鈴木 隆顕 新聞から読み解いた広告の変化の要因*
- 2018年度卒業
- ・ 大野雛子 アマルティア・センの潜在能力アプローチからみるフィリピンの現地 NGO Gawad Kalinga の貧困削減方法の可能性 (文学部)
 - ・ 青木 祥吾 恋愛に働く経済学の考察
 - ・ 徐 文琳 ファーストリテイリングは世界アパレルビジネスを牽引しているか
 - ・ 小笠原 麻由 ブロックチェーンの有用性
 - ・ 泉 あすか 行動経済学とテーマパーク人気の関係性
 - ・ 横山 涼 破壊的イノベーションへの対抗
 - ・ 大澤 燎野 Analysis of Preschool Education in Japan
 - ・ 小島 智紗子 西洋列強に対するアジア諸国の知識人たちの向き合い方
 - ・ 藤島 健太 関東大学バスケットボールリーグ 2 部リーグにおけるボックススコアを用いたゲーム分析
 - ・ 木下 花純 業種別売上高広告宣伝費比率の考察
 - ・ 島山 烈 日本で成功するスタートアップのヒント*

*印は卒業論文発表会への参加者

12. 卒業したら

『卒業したら、アフター・サービスがあります。それが終わったら (だいたい5年後?) 友達になりましょう。楽しみにしています。』

ゼミ卒業生がゼミについて感想文を書いてくれています。ゼミのホームページに載せてありますので読んでみてください。

OB・OG 会は毎年 10 月下旬 or 11 月上旬にやります。どうぞ来てください。

(コラム4) 卒業論文

私の卒業論文は、『アルゼンチンにおける経済安定化の政治経済学：オーストラル・プランの事例』というものだった。アルゼンチンというのは日本の真裏の国であるが、中南米地域では結構な大国である。1980~90 年代にハイパー・インフレーションに悩んでいたため、これを安定化する政策が行なわれた。その一つがオーストラル・プランという名前のマクロ経済政策パッケージであり、この計画の当初の成功と失敗について、政治と経済の両方を分析したというのが内容であった。

いつ頃こんなことをやる気になったのか覚えていないが、おそらく 1989 年の 1~3 月だったように思う、つまり 3 年生の冬だった。1989 年の 4 月からメキシコに留学することになっていたが、指導教官のところに「卒論ではアルゼンチンがやりたい」と言いに行ったように思う。指導教官から、この本はきちんと読みなさいと 2 冊の英語の本を薦められ、メキシコでの留学ではほとんど勉強らしい勉強といえば、この 2 冊についてカードを作って読むということしかしなかったように思う。この 2 冊は本当に良い本だった。後は、朝 10 時からビールを飲んで寝転がって本を読み、休みとなればバスでの貧乏旅行をしていた。アルゼンチンには貧乏旅行の目的地として 1990 年の 2 月に汽車で到着し、そこで新聞を縮約した資料を買った。これで、卒論用のデータはとれただろうと、ブラジルに行ってカーニバルを見てからメキシコに戻った。帰ったときには現金はほぼゼロだったのでヒヤヒヤした。

3 月に日本に帰国すると、就職活動をしながら、論文用の先行文献や資料の読解をやった。夏には自分では形は

つくだらうという目処がついた。9 月が大学院の一次試験だったので、8 月に多少は試験用の勉強をやったが、やはり勉強の中心は卒論書きだった。12 月には、要旨 (A4 × 10 枚ぐらい) をスペイン語で書かなければならないので、メキシコ人の先生にお願いしてスペイン語を直してもらった。1 月中旬頃に論文を出してから、大学院の二次試験があり、それに受かった後に学部の指導教官に論文の構造的な弱点を指摘されて、「論文を書いている間に言ってくれよ〜」と思ったことを今でも覚えている。

論文自体はどちらかと言えば政治学の論文だったが、大学院に入って、卒論をあるゼミで発表すると、著名な政治学の先生に「よくわからない」と言われ、指導教官を経済学の先生に変えて、本格的にゼロから経済学を勉強する決心がついた。よく指導教官も私を引き取ってくれたと思う。学部時代に経済学の単位はもっていたが、今から思うと、経済学を根本から理解していなかったのだ。もちろん、その後、ひたすら教科書を読み問題を解き続けるという自学自習の寺籠りのような一年間が始まった。では、卒論は今の私に生きていないかというところと全くそんなことはない。今も政治面を多少は考慮した論文が書けるのも、この当時の政治学の訓練の賜物だったと思う。これが一つ目の学問的な転機だった。

これで経済学をやることは決まったが、その後も私の学問は右往左往を続ける。その後の学問的な転機は二回あり、一つは現地現場での面談手法と英語での経済学「論理」を実地で学び、二つめは金融機関の財務諸表を厳密に学ぶことになった。計三回の学問的な転機にはそれぞれ尊敬できる師匠を得ることができたことに今でも感謝している。つまり、私には三人の大師匠がいる。もちろん、学部時代の指導教官も尊敬していて、今でも親交もある。

13. Q & A (オンライン対応含む)

Q：久松ゼミって何のゼミ？

A：ひと言で言えば「企業経済のゼミ」。財務分析もやれば「経営の経済学」も勉強する。

2013年度版までは「経済系大学院に行く人の文献ガイド」を載せてましたが、今回から削除しました。必要な人は久松まで直接尋ねてください。

でも、久松ゼミはそれだけじゃない。久松ゼミとは何かを知る最初の手引きがこのゼミナール・ハンドブックです。

後記

Q：オンライン対応は？

A：2020年度はほぼ全てのゼミ行事をオンライン化して行っています（本ゼミ、インターゼミ、サブゼミ、ゼミ・コンパ、夏合宿、OGOB会など）。中止したのは2020年3月末の卒業宴会と、新4年との一日遠足だけでした。利用しているソフトウェアToyoNet-ACE や Toyo Mail の他、Webex Meetings, Webex Teams, Zoom, Google Slides, Google Documents, Google Jamboard などです。オンラインで良かったのは、秋学期4年ゼミは毎週全員集合でやれています。